

2024 年度

上田短期大学 幼児教育学科

教職課程

自己点検評価報告書

2025 年 5 月

上田短期大学

目次

I	教職課程の現状および特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	5
	基準領域 2 学生の確保・指導・キャリア支援	7
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価	17
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	18
V	現況基礎データ票	19

I 教職課程の現況および特色

1 現況

(1) 大学名

上田女子短期大学 (令和7年4月1日より大学名称変更：上田短期大学)

(2) 学科名

幼児教育学科

(3) 所在地

長野県上田市下之郷乙 620

(4) 学生数および教員数 (令和7年5月1日現在)

履修者数/学生数 教職課程科目担当者数/教員数 96/100名 8名/9名

2 特色

本学は、長野県上田市に位置し、建学の精神「敬愛・勤勉・聡明」をもって女子学生の高等教育にあたり、短期大学士の学位を持つ多くの卒業生を社会に送り出してきた。令和7年4月1日より男女共学化して、大学名称は上田短期大学となった。

ここにいう「敬愛」とは、他者への敬意をもって行動できる人であることを意味する。また、「勤勉」とは、時間を大切に、目標に向かってコツコツと積み上げることの意味を理解し、実践することである。そして、「聡明」とは、置かれた環境から深く学び、積み上げてきたものを活かす英知をとらえている。

本学は、以上のような建学の精神を教育の基本方針とし、教育活動を行っている。教育目的や各ポリシーは以下の通りである。なお、以下はキャンパスガイドからの引用である。

[教育目的]

相対的な思考力を持ち、自ら学びえたことを明快に表現する能力を身につけることを目指します。

◇ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

「敬愛・勤勉・聡明」を十分に理解し、実践する姿勢、教育目標の達成を重視し、各学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、卒業認定・学位（短期大学士）の授与を行ないます。

◇カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成方針)

教育課程の編成は、次のような方針に従っています。

1. 共通教育科目の学びを通じ、大学生として必要な教養をバランスよく身につけるための編成をします。
2. 専門教育科目は、各学科の専門性を習得するために必要な科目を適切に開設し、

学術的な基礎力を育成します。

3. 各学科にふさわしい免許・資格を取得する科目や課程を確保するよう編成します。

◇アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）

本学では、次のような方の入学を求めています。

1. 入学後の修学に必要な高等学校卒業程度の基礎学力を持つ人
2. 他者への敬意をもって行動できる人
2. 学びを通じて、自己の成長を実現したいという強い意欲を持ち、社会貢献する夢を持っている人

◇アセスメント・ポリシー

学修成果の評価の基本方針は、次の3区分で行ないます。

1. 大学全体：入試実施状況・入学後の学生生活アンケート・学位取得状況・進路状況
2. 各学科：入学前アンケート・単位取得状況・成績分布・資格や検定の合格実績
3. 各科目：授業評価アンケート

◇学生支援の基本方針

豊かな教養と深い専門知識、そして責任感を具えた堅実中正な社会的人格の育成を目指し、以下のような学生支援を行ないます。

1. 学生一人ひとりの自己実現をはかるため、相談体制を充実させています。相談先は、ゼミ担任（専任教員）・学生相談員（専任教員）・学生相談室（相談員）・保健室に加え、全教職員で当たります。
2. キャンパスライフの充実のため、自治会活動・サークル活動を積極的に支援し、後援会・同窓会とも連携し、施設・設備の充実に努めています。
3. 卒業後のステージ（就職・進学等）に必要なガイダンス・セミナー等を適期に開催するとともに、個別相談を重ねて、目標達成の支援を行ないます。

◇学習成果

各学科の学習成果に基づいて、以下の学習成果を設定しています。

1. 社会人になるための豊かな教養を身につけている。
2. 各学科の学習成果に基づいた専門知識・能力を身につけている。
3. 身につけた知識・能力を社会の中で実践することができる。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

〔基準領域 1〕 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

1 目的・目標、養成を目指す教員像について教職課程に関わる教職員が共通理解をしている。

本学は、「敬意・勤勉・聡明」を建学の精神にもとづき、「他者を敬い尊重する教師」「日々研鑽を重ね自己の能力を高める勤勉な教師」「広い知識と深い知識と教養に裏付けられた実践的判断力を持つ聡明な教師」を養成することを理念としている。

この理念のもと、幼児教育学科では、幼稚園教諭二種免許状に関わる教員養成課程の中で、幼児教育・保育に関する専門的な知識・技能の修得とともに、豊かな人間性のはぐくみ、地域社会の幼児教育に貢献できる実践者を育てることを目指している。具体的な教員像としては、「他者への感受性をもってコミュニケーションを図れる幼稚園教諭」「保育に関する基礎的な知識・技能を有し、子どもとともに学びを深められる幼稚園教諭」「音楽や美術、言語等、表現に関する深い理解及び高い技能を持ち、実践に活かすことのできる幼稚園教諭」である。これらの、教員像を目指して、学生が専門的な学びを深められるよう、教務委員会が中心となってカリキュラムを構成し、シラバス作成にかかわる助言指導を行うことで、所属教員全体で教員養成の目的・目標・目指す教員像を共有できるように図っている。

2 教職課程教育を通して育まれるべき学修成果（ラーニング・アウトカム）が具体的に示されている。

先述の、目指すべき教員像につながるようディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設置し、育てたい学生像を明確化している。以下に挙げる4項目は、目指すべき学修成果（ラーニング・アウトカム）となっている。

- ① 社会人になるための教養を身につけている。
- ② 教育・保育の目的や支援について理解している。
- ③ 教育・保育のための知識と技術を身につけている。
- ④ 教育・保育に必要な自然保育や福祉社会、表現文化の知識と技術を身につけている。

これらの4項目は、学生便覧・学校案内・本学ホームページに明記されている。また、本学設置科目を一握できるカリキュラム・ツリーの骨組みとなっており、各授業科目のシラバス内で設定されている到達目標にも反映されるよう、教務委員会を中心に定期的に助言指導が行われている。

3 教職課程教育の目的・目標を学生に周知している。

先に示した項目における建学の精神、教育の基本方針および学修成果は、学生便覧、

本学が運営する本学ホームページ内に明記されており、かつ建学の精神は校舎の随所に掲げられていることから、教職員のみならず学生もまた日常的に意識できる状態にある。加えて、FD 委員会が授業アンケートを実施し受講者による授業評価を求めることで、学生自らが在籍する教職課程での学び目的・目標を、定期的に意識できるよう促している。

〈根拠となる資料〉

- ・ 学生便覧
- ・ 本学ホームページ
- ・ 教務委員会、FD 委員会作成資料（講師懇談会資料を含む）
- ・ 学内掲示

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[現状説明]

本学科の教員組織は、専門性の異なる複数の研究者教員と学校や保育の現場での優れた実践的経験を有する教員で成り立っている。教員それぞれの専門や経験を生かしながら、全員で協働して学生の指導に当たっている。

実習関連科目については、保育現場での実践的経験を有する職員を実習指導職員として実習指導室に配置している。実習指導職員は、実習に関する事務や学生が行う実習手続きのサポートなどを担当するとともに、実習に関する学生の相談を受けたり、アドバイスをしたりしている。実習委員会は、幼児教育学科の全教員と実習指導職員からなる組織で、実習指導に加え、教職課程に関する科目についても情報共有等を行っている。

教職課程を運営していくにあたり、教務委員会と幼児教育学科が連携し、意思疎通を図っている。具体的には、教務委員会、必要に応じて共通教育の検討のためのプロジェクトメンバーが教職課程を検討し、検討した内容を幼児教育学科でさらに検討、確認、修正等を行うことで、自己点検・評価をしている。また、幼児教育学科会では、幼児教育学科の教員全員がカリキュラムマップとカリキュラムツリー、自身のシラバスを見直し、検討し、必要に応じて新たな提案を教務委員会にあげていく。

教職課程の質向上のために、学期ごとに授業アンケートを実施した上で、専任教員・非常勤講師の教員は、自身の授業アンケートを確認、評価し、「授業アンケート報告書」に授業のよさ・特色、課題、改善点を記述し、FD 委員会に提出している。FD 委員会では、「授業アンケート報告書」の記載内容を確認している。「授業アンケート報告書」に教職課程の在り方や教職課程教育を行う上での施設・設備に関する内容が記載されていた場合には、FD 委員と教務委員による合同会議を開き、記載内容を共有したうえで、必要に応じて改善等を行っている。SD の取り組みとしては、文部科学省による教職課程に関する説明会に教務委員会のメンバーが複数人で参加することで、教職課程に対する理解を深め、教職課程の質向上を担っている。また、教務委員会ではシラバスチェック

を丁寧に行っている。

本学のホームページの「教員の養成に関する情報公開」には、教職課程に関わる情報を公開している。また、シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーもホームページで確認できる。

教職課程教育を行う上での施設・設備については、実践的な学びができる保育演習室（造形、絵画、図画工作演習室兼）や、音楽システムを導入したピアノのグループ演習に適した教室、調理実習ができる教室が設置されている教室などを用意している。実践的な学びができる保育演習室を設置している。また本学には、附属幼稚園や園児が自然を通して学べる裏山という環境があり、実践的な学びを行うフィールドとして活用している。

[長所・特色]

教育実習事前事後指導及び教職課程の科目では、隣接する附属幼稚園において、学生が実践的な学びを行うことができるようにしている。また、一部の授業においては、附属幼稚園と連携し、附属幼稚園の園長が実践的な話をしたり、園児が短大の授業に参加したりするなど、園児と学生が交わる内容を設けている。このように、学生が理論と実践を結びつけることができる授業を展開している。

[取り組みの課題]

教職課程の質的向上のために、教職課程における自己点検・評価を組織的に実施していく仕組みを作り、確実に運用していくことが課題である。

〈根拠となる資料〉

- ・ 本学ホームページ
- ・ FD 委員会議事録

[基準領域 2] 学生の確保・指導・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材確保・育成

[現状説明]

本学の建学の精神は「敬愛・勤勉・聡明」であり、教育目的は「教育基本法・学校教育法に従って大学教育を施し、豊かな教養と深い専門知識、そして責任感を具えた堅実中正な社会的人格の育成」としている。これを踏まえ幼児教育学科では「専門職としての保育者に相応しい知識と技術を身につけ、他者を敬い尊重すべくコミュニケーション能力や表現への理解を持った聡明な人材を目指します。」という教育目標を掲げている。こうした教育目標を達成すべく、求める学生像として、学校案内、学生募集要項、ホームページ等と合わせ、「高校訪問」「入試説明会」を通じ、本学が入学志願者に求める資質や能力を

公開している。また、オープンキャンパスや学校見学会を通して、求める学生像の説明を丁寧に行い、卒業生や地元地域の専門職をお招きし、幼稚園教諭・保育士の魅力を伝えるとともに、学生スタッフを通じて学びの魅力を伝えている。

アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）は以下の通りである。

◇アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）

幼児教育学科では、次のような方の入学を求めています。

1. 入学後の就学に必要な高等学校等卒業程度の基礎学力を持つ人
2. 子どもの育ちに関心を抱き、そのための知識・技術を身につける意欲を持つ人
3. 他者への敬意をもって行動できる人

入学者選抜試験においては、本学・本学科の受入方針に基づき試験を行い、幼児教育・保育に対する関心や意欲のある入学性の確保を目的としている。その結果、ほぼすべての学生が幼稚園教諭2種免許状の取得を目指しており、教育課程に即した人材を受け入れているといえる。

入学後は各学期当初にオリエンテーションを実施し、幼稚園教諭2種免許状や保育士資格取得の目的や履修方法などを説明している。

さらに、卒業時には8割以上の学生が教育・保育職関連の就職を遂げることを踏まえ、2年間の達成・獲得が可能であるべく教育課程の編成においてカリキュラムが設定されている。カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）は以下の通りである。

◇カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

幼児教育学科では、子どもの幸せを探究できる人材育成を行うために、次に掲げる科目により教育課程を編成し、授業目標への到達度で成績評価します。

1. 豊かな教養を培う共通教育科目を設置する。
2. 教育・保育の本質と目的を学ぶ基礎理論に関する科目を設置する。
3. 教育・保育の対象を理解し、支援するための知識と技術を培う科目を設置する。
4. 学生が自身の得意分野や興味関心に合わせて学びを深め、応用力を高められるよう、自然保育、福祉社会、表現文化コースの3コースを設置する。
5. 実際の現場を想定した課題を見出し、他社と共同して課題について考察を深める態度を培う教育を実施する。

幼児教育学科では、専門科目と共通教育科目を設置し、教育課程を編成している。このうち共通教育科目では、専門知識や技能の修得の前提となる実生活における知の充実や、基礎的人間力を養うことを目的とする。それらに設置された科目群は、専門科目で扱う内容に直結するものであり、双方の接続は保証されている。

職業教育としての専門科目においては、教育効果が直接反映される機会として、実際の幼児教育・保育・福祉の現場での各実習が重要である。実習先の教職員から直接学生の実習についての評価を聞き取り、実習現場で学生指導を行う「実習現地指導」を実施している。また実習終了後に実習先から送付される「評価票」の内容を詳しく検討して学生一人ひとりに伝達し、事後指導を十分に行っている。

さらに、幼児教育学科の学習成果に定められている内容は、いずれも、学生が卒業後として現場で働く際に求められる資質・能力を念頭において定められたものである。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)は以下の通りである。

◇ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

1. 社会人になるための教養を身につけている。
2. 教育・保育の目的や支援について理解している。
3. 教育・保育のための知識と技術を身につけている。
4. 教育・保育に必要な自然保育や福祉社会、表現文化の知識と技術を身につけている。

以上のディプロマ・ポリシーをもとに、教育課程の卒業要件を満たした学生に対し「短期大学士」の学位を授与することとしている。

〈根拠となる資料〉

- ・「基準Ⅱ 教育課程と学生支援 テーマ 基準Ⅱ－A 教育課程」(令和4年度 学校法人北野学園上田女子短期大学 自己点検・評価報告書)
- ・キャンパスガイド2024
- ・2025年度 学生募集要項
- ・本学ホームページ

〔長所・特色〕

本学では、建学の精神「敬愛・勤勉・聡明」に基づき幼児教育学科と総合文化学科が、学科ごと学生募集の基本方針を定めている。幼児教育学科では、3つの学生募集の基本方針(アドミッションポリシー)として、パンフレットや学生募集要項、ホームページ等と併せ、高校生対象の会場説明会や高校訪問時、新入学生ガイダンス等を通じ、本学が志願者に求める資質能力として公開している。特に、オープンキャンパスでは、求める学生像の説明を丁寧に行っている。

学生募集の基本方針(アドミッションポリシー)としては、以下の3つを掲げている。

- ・入学後の修学に必要な高等学校卒業程度の基礎学力を持つ人
- ・子どもの育ちに関心を抱き、そのために知識・技術を身につける意欲を持つ人
- ・他者への敬意をもって行動できる人

入試選抜試験においては、本校のアドミッション・ポリシーを面接の指標とし、教員を目指す志を強くもつ入学生の確保に留意している。その結果、ほぼすべての入学者が免許取得を目指していることから、教職課程に即した人材を受け入れていると言える。

[取り組み上の課題]

学生の募集・選考等に関しては、本学の学生募集の基本方針が志願者により理解した上で志願してもらえよう、説明の機会を増やし志願者により理解してもらうために取り組む必要がある。また、入試選抜試験を実施する教員側も、本学のアドミッション・ポリシーについて深く理解し、全教員が共通理解をした上で選抜試験に臨むことが重要である。

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

本学では、進路サポート室を設置し、専属の職員が教職へのキャリア支援を入学時の進路ガイダンスからスタートし、卒業までの期間継続して行っている。学生が安心して教職課程を履修し、進路の選択ができるよう随時学生が相談できる体制を築いている。キャリア教育の授業においても進路サポート室や進路担当教員が連携し、履歴書の書き方演習、面接練習や小論文演習、求人票の見方などを扱い、学生が見通しを持った進路選択や就職活動ができるように指導している。学内に実習指導室を設置し、実習に関係する指導やサポートを行っており、実習・進路・就職へと教職員が連携し、1人ひとりの学生をきめ細かくサポートするシステムを敷いている。また、公務員講座を開設し、公務員を志望する学生への受験対策を行っている。進路ガイダンス、キャリア講座等、1年次からキャリアへの意欲・状況が把握できるよう情報提供している。教職履修上の悩みや進路について、ゼミナール担当教員他、各実習科目担当教員と保育・教職に係わる系統的な学びの中で、自身の適正を見つめ、自身の社会人として目指す理想像や教育者としての課題を共有し支援する体制がある。1年次における学修のつまづきは、教職への道を閉ざすものともなるため、学力面・生活面で心配な学生に対しては各ゼミナール担当、実習担当教員が面接を実施し、指導しながらサポートを進めていく体制がある。

また、教育プログラムでは、卒業後に教員として子どもに向き合い、自立し地域と共に子どもを育てていくための能力育成を目指し、必要な力を修得するために、教育・保育の指導法に関する科目内容の充実や教職の基礎的理解に関する科目等を中心に学修している。教育職の現場で働く社会人や諸先輩の話を聴き、自分がどのような適性を持ち合わせ

ているかを考え、社会にどう貢献していくかを考える場づくりを提供している。施設系の職場で求められる責任感や倫理観についても教職課程の授業や実習で指導する場を設けている。内定後のフォローアップセミナーや卒業生の評価に関するアンケートを行い、集約された内容を学科で共有し、日頃の学生生活や教職へのキャリア支援に活用している。

〈根拠となる資料〉

- ・自己点検区分 基準Ⅱ-A-7 基準Ⅱ-A-8 基準Ⅱ-A 教育課程の課題・基準Ⅱ 教育課程と学生支援 (令和4年度 自己点検・評価報告書)

〔長所・特色〕

本学では、本実習の前にプレ実習を附属幼稚園で行い、より体験的に幼児教育を学ぶ機会を設けている。本学の特色として2年次から3コース制（自然保育・福祉社会・表現文化）を導入し、学生がより専門的に知識を学ぶとともに地域の資源とつながり、興味・関心を広げ進路選択へつながるよう工夫している。学童保育所や障害者施設、福祉イベント、商業施設での保育関連イベント等でパネルシアターや絵本読み聞かせ、レクリエーション活動、遊び、表現活動などのボランティアを行い、病院や学校と連携し、地域のコミュニティへの参画やキャリア形成への自己探求の機会となっている。こうした体験を通して、子ども達の成長・発達の観察、関わりの具体的実践方法について学んでいる。

信州大学との連携協定を締結し、単位互換制を行っており、4年生大学の教職課程とも授業を通じて学べる機会を設けている。コロナ禍の影響で対面コミュニケーションに不安を抱える学生もいる中で、実習を含め、自らの意思で参加し現場教員や子どもから体験的に学ぶことは現実や進路に迷う学生にも、よい刺激となり、自身の進路決定の意識を固めることに役立っている。

令和4年度の免許・資格の取得率は以下の通りである。

幼稚園教諭二種免許状…72/76名（95%）

保育士資格…76/79名（96%）

介護職員初任者研修…8名/8名（100%）

レクリエーション・インストラクター…15/20名（75%）

〔根拠となる資料〕

- ・自己点検区分 基準Ⅰ-A-2 の現状・基準Ⅰ-B-2の現状・基準Ⅱ-B-4 (令和4年自己点検・評価報告書)

〔取組上の課題〕

教職・保育職に就くための社会からの要請に応える教職プログラムが課題である。本学は、幼保連携認定こども園の増加に対応する幼稚園教諭・保育士の両免許・資格を目指す

というプログラムの重要性を学生に伝えている。しかし、個々の学生の背景や適性にも多様性があり、学生自身が資格取得を選択しないことや進路先を企業へ選択する実情も受け入れざるを得ない。さらに今後も増加することが予測される多様な学生の受け入れにあたり、大学教員・職員が一丸となり地域で求められる教員を養成するために工夫を重ねていくことが必要である。

〔基準領域3〕 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学の教職課程は、文部科学省が示す教職課程コアカリキュラムの内容及び本学の教育目的・目標、学位授与の方針、ディプロマポリシー（育てたい学生像）やカリキュラムポリシー（授業構成について）に基づき編成している。例年9割前後の学生が保育士と幼稚園教諭免許を取得し専門職に就職している。そのため、本学では質の高い教員養成の実現に向け教育課程を編成している。教育課程は、専門的知識・能力を6区分に分類し、各科目との対応関係や科目間の順次性を示しており、学生は教職課程全体の構造を理解することができる。なお、カリキュラム・ツリーは、学科内で検討を重ね、教授会の協議事項としても提出され、教職課程全体の構造を俯瞰しより質の高い教員の養成を目指している。教育課程の実施においては、シラバス記載内容の点検、改善に取り組みながら教育課程が適正に実施されるよう努めている。実施にあたり、「履修カルテ」をもとに学生の学修成果の把握と指導、学生の主体的な学修を促す取り組み及び単位の実質化に向けている。2022年度シラバスから、卒業認定・学位授与の方針と各科目の対応関係や授業の予習復習の内容と時間（2023年度～）、課題に対するフィードバックを明記した。また、GPA制度により履修登録単位数の上限を定め、CAP制を取り入れている。成績評価基準についても、シラバスに明記した上で、厳格な成績評価を実施している。

〔長所・特色〕

具体的には以下のようなカリキュラム編成と指導体制のもと授業を実施している。

1. 本学では、社会人として必要な思考や行動、並びに教員の専門的な学修につながる知識・技術を修得する上で土台となる共通教育科目を短期大学としては可能な限り開設し、主に1年次に履修できるよう科目配当を行っている。共通教育科目は、総合文化学科と連携し広く教養を深める科目となっており、学生の興味関心を契機として、探求することを重視した「デザインの学び」等がある。専門科目においては、独立行政法人信州大学教育学部と単位互換協定を結び、より専門的知識を深めることができるようにしている。2年次には3コース（「自然保育」・「福祉社会」・「表現文化」）体制で、より専門性の高い領域の知識・技術を学べるよう設定している。共通教育科目、専門科目ともに学生の能動性・活動性を高めるアクティブラーニングを授業に取り入れている。

2. 本学はレクリエーション・インストラクター課程認定校であり、保育士、幼稚園教諭免許状に加え、レクリエーション・インストラクター資格の取得を可能としている。また、自然体験活動指導者認定校であり、準学校心理士である。さらに、介護初任者研修の資格も取得できる。保育士・幼稚園教諭免許状に加え、前述した資格取得を可能としている。

3. 教職課程において実習は、特に重要な位置を占めるものであり、本学では実習授業担当者だけでなく専任教員全てがかかわり実習指導を展開している。実習の事前事後指導は、実務家教員を含め複数制で行われている。観察の視点、保育計画の立案や実践評価、教材研究等の指導は、授業以外に個別指導の時間を設け手厚く丁寧に行うことにより、学修者主体の指導を可能にしている。特筆すべきは、隣接している附属幼稚園と連携し、プレ実習等により日常的に理論と実践の習熟を目指していることである。さらに、ICTを活用した日誌や指導案作成も推進している。本学では全実習授業担当教員と実習事務で構成される実習委員会が組織され、多様な実習先との連絡・連携・課題といった内容を共有・協議し、実習カリキュラムを有効に機能させる実習の指導体制づくりに努めている。指導には、幼稚園・保育所・施設それぞれ実務に特化した教員があたり、対人援助職としての学びの深まりを支えている。

4. 卒業年次に教育者としての最小限必要な力を有しているかを確認することをねらいに、教職課程において必修化された教職実践演習（2単位）について、本学では「保育・教職実践演習」と称し2年次の通年科目（2単位）に配当している。授業は、ゼミナールとの連携を図り、専任教員が担当して行う授業とともに、個別指導を可能にしている。本学では、保育・教育に関連した興味・関心をもとに卒業研究テーマを設定し、研究成果は各ゼミナールにおいて発表会・報告をしている。（1年次：卒業研究テーマ報告会、2年次：卒業研究（中間）発表会）にて報告する。さらに、授業の成果を年2回、学内外で発表する機会を設け、地域住民との対話を通して学生の学びの発信と成長の機会としている。

本学では、学生の学修状況を的確に把握するために「履修カルテ」を活用している。

「履修カルテ」は、学生が自身の学修成果を自己評価するものである。同時に教員が学生の学習成果の不足を補う指導の資料となるものである。本学では「履修カルテ」を、主に当該科目に加え、学生とゼミナール担当教員間で共有している。当該科目を1年次から開始することによって、教員は早い段階から学生の学修達成状況を把握し、個に応じた補完的な指導を丁寧に行っている。

5. 本学では選択科目である幼稚園教諭免許、保育士資格取得の必修科目とし、「自然保育」・「福祉社会」・「表現文化」の3コースを設定し2年次の通年科目（2単位）に配当している。授業では、専門科目に関わる興味・関心に基づき、地域の福祉施設や学校、事業所、一般企業、医療施設等へ赴き、学生間の共同による交流体験や社会的課題に対して創意工夫・独自性のある改善に向かう実践に取り組んでいる。

6. 本学では、幼児安全法支援員講習を本学を会場に年1回実施している。なお、認定・検定に関しては、指定された専門科目を履修することにより取得が可能となっている。

〔取り組み上の課題〕

本学では、選択科目が教養の深まりに繋がる一方、履修科目増により学生の多忙が生じる要因となっている。科目のスリム化に関しては要検討中である。また、授業におけるオンラインやオンデマンド等の活用により、学生の自主学習時間を確保することが必要である。

また、教育実習を行う上で、必要な履修条件の運用に課題があることから、内規の見直しを行う必要がある。

〈根拠となる資料〉

- ・ 2024学生便覧
- ・ 本学ホームページ
- ・ 令和4年度自己点検評価
- ・ 令和4年度 自己点検評価 区分 基準Ⅱ-A-2 現状

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕〔長所・特色〕

1. 教育の実際場面に学生が触れるフィールドを提供している。

本学附属幼稚園においてプレ実習を行い、実際の保育場面について体験を通して学びを深めている。また、多くの科目において附属幼稚園と連携を行っており、講義内で附属幼稚園の園児と描画遊びを行うこと等を通して子どもと関わりながら実践力を培っている。

2. 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する場を設定している。

自然保育コース、表現文化コース、福祉社会コースに分かれ、コースごとの特色を活かしながら里山、特別支援教育の現場、子育て支援施設等に訪問・活動の企画・実践を行っている。また、本学の公開講座として行われる「遊びの森マルシェ」においては、本学の施設や裏山を地域の子育て世代に開放し、県のレクリエーション協会とも連携しながら地域の子どもを持つ家庭の遊びの場を提供し、学生も遊びのブースを企画・運営しながら実践的指導力を醸成している。

3. 様々な体験活動（ボランティアやインターンシップ）とその省察による往還の機会を提供している。

ボランティア活動を通して、学生が教員、教育者としての力を獲得していく活動は、主に未来共創センターが窓口となって行われている。未来共創センターでは、ボランティア情報を集積し、学生にボランティア活動を紹介したり、その魅力を伝えたりしながら

ら、ボランティア活動に参加するためのきっかけを与えるとともに、ボランティア活動に取り組む過程の相談に応じるなど学生と地域をつなぐサポートをしている。ボランティア活動は1、2年生合同チームで行われることもあり、先輩が指導役となり、後輩に対して教員として必要な知識や技術を伝える場にもなっている。また、地域との連携という視点からは、市内にある商業施設と連携しながら幼児教育理解の推進や自然、SDGsを題材としながらイベントを企画し、買い物に訪れた親子が子どもや持続可能な社会に関心を持つことが出来るようなブースの企画運営を行った。

4. 様々な子どもの発達段階に関する教育実践的な情報を提供している。

信州大学と連携して行われている合同学習会をはじめ、教職員が教育の方法を学ぶ機会などを学生にも知らせ、希望者は参加できる体制を整えている。短大の裏山を附属幼稚園卒園児の保護者や子どもと共に整備し、安全に遊ぶことが出来るような里山整備を行っているが、その活動にも学生が参加できるようにボランティア募集の告知や活動の周知を行っている。

5. 学生の主体的な学びを目指すために演習科目においては、ICTの活用やPBLを実施している。授業では、ペアや少人数のグループワークを取り入れ、学生が協働的に課題を解決していく力を育んでいる。また授業での成果については、ICTを活用したプレゼンテーションやポスター形式での発表を通して報告する。さらに学生一人ひとりが自らの学修成果を自己評価する「履修カルテ」をゼミ担当教員が確認をすることで学生の学修状況を的確に把握し、個別指導や授業改善に活用している。

6. 幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得に向けては、専門的な知識の習得はもとより、実際に乳幼児期の子ども達とのかかわりや地域社会とのかかわりを重視し、教員としての見方や考え方、地域とのかかわりについて実践的に学んでいる。とくに本学に隣接した附属幼稚園において幼児を対象としたイベントやプログラムを学生同士の協働によって企画、実践することを通して、乳幼児期の発育発達や行動心理について理解を深めることができている。

5. 教育委員会との組織的な連携協力体制を構築している。

長野県教育委員会学びの改革支援課、信州幼児教育支援センターの会議において幼少接続カリキュラムを作成し、授業内容に反映させている。なお、公立保育園のケースではあるもの、上田市教育委員会と連携し、幼児と運動遊びを通して発達を促すチャレンジキッズ講座の学生支援員として参加し、学びを深めている。

6. 教育実習の指定校（協力校）との連携を図っている。

本学では、教職課程がより有効に機能し学生の実践的指導力の育成に繋がるよう、上田女子短期大学附属幼稚園と大屋幼稚園を教育実習の指定校（協力校）とし、教育実習はもちろん、教育実習時以外にも授業や授業外で連携を図っている。具体的な連携内容は以下の通りである。

[取り組み上の課題]

連携校や他園との実習を通じて実践的な力を育成しているが、現場での ICT 活用と実習日誌の記載方法や指導案の記載方法との間に差が生じており、今後連携を図る必要がある。

<根拠となる資料>

- ・ 2024 年度自己点検評価報告書
- ・ 本学ホームページ

Ⅲ 総合評価

本学は、建学の精神「敬愛・勤勉・聡明」を基本とし、子どもが安心して育つ未来を創る保育人を育成するとともに、地域で活躍する人材を輩出することを目標としている。保育者不足の中、地域が求める多様性に対応し、質の高い保育を提供できる専門性を備えた保育者の要請に力を注いでいる。

本学の教職課程教育の総合評価として、自己点検内容の基準領域1～基準領域3について自己点検・評価を踏まえ、その要件を概ね満たしていると判断している。今後の課題として以下の点が挙げられる。

- (1) 幼稚園教諭・保育教諭の魅力を伝えつつ、専門性が身につく授業の充実・教育課程の見直し
- (2) 教職課程履修の意思や取り組みの姿勢を確認し、個々に合わせた履修の方向を検討すること、教育実習への取り組みに遅延がある学生への丁寧な個別指導
- (3) 就職活動への丁寧なサポートや就職後の学び直しの機会の確保
- (4) ボランティア活動の充実

本学では、2023年に認証評価を受け適格認定されている。自己点検活動は、FD・SDとも連携しながら進めており、これらと連携しながら今後も、「教職課程自己点検・評価」を充実させていく。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学では、教職に関わることは教務委員会で議論している。そのため、教務委員会が本報告書の作成を担当した。本報告書作成プロセスは、教務委員会及び幼児教育学科で「教職課程自己点検評価報告書作成の手引き」をもとに検討し、執筆は学務分掌や実習担当の観点から分担し、教職課程の質向上を目的として自己点検評価を行った。実施時期は、2024 年度内に公表することとした。

実施項目は、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、学生の確保・育成キャリア支援、適切な教職課程カリキュラムとし、執筆後、教務委員会にて集約・点検を行い、総合評価を加えた上で本学ホームページに公開した。

V 現況基礎データ票

令和7年5月1日現在

設置者		北野学園			
大学・学部名称		上田短期大学			
学科やコースの名称		幼児教育学科			
1. 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数		5 4			
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）		4 7			
③ ①のうち、教員免許取得者の実数（複数免許取得者も 1 と数える）		4 4			
④ ②のうち、教職に就いた者の数（正規採用＋臨時的任用の合計数）		2 3			
④のうち、正規採用者数		2 3			
④のうち、臨時的任用者数		0			
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	3	4	2	0	0